

GOKURAKUJI DAYORI
極楽寺だより
2025(令和7)年 6月号



発行所：極楽寺（浄土真宗本願寺派）☎ 759-3803 山口県長門市三隅下野波瀬 3633 ☎ 0837-43-0625

夏法座のご案内

雨の季節には、仏さまの教えを聞き、静かにわが身をふりかえる

「安居会」「夏安居」という行事が、お釈迦さまの頃から伝わっています。

田植時期の疲れを、お法の水で流そうという、ゆかしい夏の法座です。

お誘いあわせ、お参りください。

六月十一日（水）

昼一時半 夜七時半

六月十二日（木）

昼一時半

※ 日程が変更になりました。

カレンダーの日程とは違い、おまの日程、
ご注意ください。

講師 山口市 徳地 超勝寺住職

大來尚順師

ご予約ください

第58回三隅地区親鸞聖人鑽仰会法座

三隅地区の真宗寺院が持ち回りで勤める法座です

期日：10月18～19日 会場：兔渡谷 常楽寺

講師：桂春蝶師（落語家）

今回は、落語です
お楽しみに！

5月11日の総代・世話人会議において、下記の通り 収支決算の承認をいただきましたので、ご報告致します。

2024（令和6）年度極楽寺門徒会収支決算書

2024年4月1日～2025年3月31日

	費目	金額(円)	摘要	
収 入	門徒会会費	1,147,000	今年度分 263戸×4,000円内一件1,000円 (野波瀬95/在方98/町外70)	1,049,000
			前納分 10戸	98,000
	本山教化助成金	0		
	貯金利息	1,256	8/21 168円 2/17 1,088円	
	特別会計より回金	1,100,000	クーラー設置費用	
	前年度繰越金	1,942,040		
	合計	4,190,296		
支 出	負担金	433,810	本山賦課金	262,860
			山口教区費	134,350
			大津東組 組費	36,600
	研修会費	0		
	火災保険料	301,555	西部農業共済	91,200
		本堂 6,700万円	JA共済	160,255
		庫裏 4,000万円	JF共済	50,100
	会議費	60,000	5/8 総代・世話人会議	
	慶弔費	0		
	予備費	1,100,000	クーラー設置費用	
	合計	1,895,365		
	差引残金	2,294,931	山口銀行普通預金	

2024（令和6）年度極楽寺門徒会 特別会計収支決算書

	費目	金額(円)	摘要	
収 入	前年度繰越金	2,729,192		
	利息	1,004	8/21 212円 2/17 792円	
	合計	2,730,196		
支 出	通常会計回金	1,100,000		
	合計	1,100,000		
	合計	1,630,196	山口銀行普通預金	

門徒会費 4,000 円の納入をお願いいたします。

三隅地区の方は世話人さんへ。

他地区の方は、直接お寺へ納入して下さい。



総代の交代について

世話を十年五ヶ月、総代を八年勤めてくださいました
本じむらゆうじ 藤村勇次さん(久原)が退任され、
たなかまさゆき 田中正幸さん(土手)が総
代に就任されることになりました。藤村さん、本当に有難う
ございました。田中さん、どうぞよろしく願いいたします。



田中新総代

弔意

元世話人の豊原・重岡幸作しげおかこうさくさんが往生されました。世話を勤められた期間は、
なんと四十二年八ヶ月！本当にお世話になりました。有難うございました。

若院じゃくいんが帰ってきました

北九州の福祉施設に勤務していた若院じゃくいんが、この度極楽寺に帰ってまいりました。
これから、極楽寺次期住職じきしゅうしやくとして、法務ほうむに携たずさわることとなります。
経験不足で、皆様にはご迷惑めいわくをおかけしますが、何とぞお育てそだいただき、お支えさけ
いただければと思います。

若院じゃくいんよりのご挨拶

この度、極楽寺に戻ってきました
池信融いけのぶゆづや世よです。

今後、様々な形でお世話になるかと

思います。まだ、あらゆる面あまで未熟みじゆくな

身みですので、温あたたかい目で見守まもっていただければ有難ありがたいです。

精一杯がんばります。どうぞ、お育てそだてください。

よろしく願いいたします。



若院じゃくいんの帰坊きぼうに伴ともない、住職は療養を中心とした生活に入ります。
もちろん、体調と相談しながら、法務も勤めるつもりです。
住職の事情についての詳細は、次ページをご覧ください。

おしえのかげら

OSHIE NO KAKERA



新シリーズ「癌と共に」 第一回 「告知を受けて」

今年二月に行つた健康診断で肺に影が見つかり、検査の結果、癌であることを告知されました。癌と聞くと驚かれる方もあるかもしれませんが、今や研究が進み良い薬があるので、元気になる方も多いようです。もちろん、厳しい結果が待っているかもしれませんが。何とも先が見えないのが、現状です。

ただ、せっかくこんなご縁をいただいたので、ここから見えてくるもの、知らされたことを、これから連載として書き連ねてみようと思います。そこから、私が出遇うことができた教えの「カケラ」が、伝わればうれしいことです。

さて、癌を患つた同級生から「癌の告知を受けたら、冗談じゃない」「ガン！」「ガン！」と思うぞ」と忠告されたことがあります。私もきつと『ガン！』と思うのではないかと考えていたのですが、意外や冷静に受け止めている自分がいました。↓

～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～

考えてみれば、それは次男の病気という経験があつたからだと思ひます。今では元気に過ごしていますが、彼は血液の病気で二度の骨髄移植を受けました。先が見えず、不安ばかりが募る中で「一日一日、丁寧に歩むしかない」と、家族みんなで支え合いながら過ごした日々が、私を育ててくれていたのでしよう。

そしてもう一人、私を育ててくださった「恩人」ともいべき人がいます。その人の話をさせてください。

以前、あるご住職が心臓発作の影響で、約二年間意識を失われた後に、亡くなられました。私が大学時代にお世話になつた先輩です。坊守さんも私の先輩で、お二人にはよくしていただいたので、入院されている時には、近くに行く度にお見舞いに伺っていました。

坊守さんは毎日病院に通われ、愛おしく心を込めて、大切に、大切に手足のマッサージをされます。「一日、一日よね」とつぶやきながら。その姿を見て、私はとても感動したのです。「ああ、意識があろうがなろうが、今お二人は共に生きておられる。今日一日はお二人にとって、かけがえのない人生の一日なのだ」と感じら

れたからです。それは、ただ美しいだけのものではないのでしよう。心の内には、様々な思いがあらわれたのだろうと思います。それも含めて、私は勇気をいただいたのです。次男が苦しんでいた、厳しい時期でした。結局「一日一日」を丁寧に過ごすしかないのだと、改めて教えられました。

確認しておきますが、「一日を丁寧に生きる」とは、目先のことを優先するということではありません。近頃は「人間死んだら終わりだから、自分の好きなこと、やりたいことをした方がいい」と、自己中心的なふるまいで、周囲に迷惑をかけ、次の世代に悪影響を残すような生き方をする人も増えていきます。

そうではなくて、人生において大切なこととは何かを問いながら、どんな態度で人生を生きるべきかを訪ねながら、今何をすべきかを考える。目先の欲望や、将来の不安に執着することを慎む。大きな時間の中に身を置きながらも、今を精一杯生きるとでも言えば良いのでしうか。

さて、後日ある先輩住職に、「この前、お見舞いに行ってきたよ」と声をかけました。その方も、お二人のことをご存じだったからです。するとそのご住職は、冗談交じりでこう言われました。

「ああなつたら、もう人間終わりやなあ」

衝撃的な言葉でした。軽い気持ちの冗談だとしても、まさかそ

～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～

んな言葉を聞くとは思いませんでしたから。その時は何とかやり過ぎましたが、彼の言葉は後々まで心に残り、私の心をえぐり続けました。お二人の人生を、そして私たち家族の歩みを、否定された気がしたからです。

しかし時間が経過して冷静になった頃、改めて考えたのです。今の時代、そんな風に思っている人の方が、実は多いのではないか。そんな世の中の「当たり前」が、彼にそのような言葉を語らせたのではないかと。

何より、私自身が厳しい環境に身を置いていたからこそ、あの言葉にショックを受けたわけです。もしそうでなかったら軽く聞き流していたのかもしれませんが。

ならば、自分に引き寄せて考えてみたかどうか。苦しみ、悩みを抱えている人に対して、私は配慮してきたのか。「みんなも言っているから」という軽い気持ちで、無神経に人を傷つける言葉を発してきたのではなかったか。被害者の立場から憤慨するだけではなく、加害者の立場から自らを問うことも、とても大切な営みなのではないかと気づかされたのです。

この時以来、世の中の多数が「当たり前」だと思っていることに対し、「本当にそうなのか」と意識的に疑うことを心掛けるようになりました。

同時に、私は「ああなつても、人間は終わりではない」と言

い切れる道を歩みたいと、強く思うようにもなりました。どんな状況にある人でも尊ぶことができる拠り所を求めていこうと。

そもそも、私がいただいていたお念仏の教えとは、世の中の「当たり前」という枠組みを揺さぶることで、豊かなものの見方を示してくださる世界でした。また、どんな私をも尊んでくださる拠り所なのだ、味わつてきました。

同じお念仏の教えをいただきながら、一方では「終わりだ」という人がいて、もう一方では「そうではない」といわれる方がいる。ならばこの時こそ、もう一度お念仏のみ教えをいただき直し、これまで私を導いてくださった方々の言葉を味わい直していこう。深めていこう。そんなご縁としたのです。

今私が、自分の状況に冷静に向き合うことができるのは、そんな歩みを通して出遇えた世界に支えられているからだ、はつきりと言いつけることができます。

「ああなったら、人間終わりやなあ」と思っている人が「ああなつた」とき、「オレはもう終わりだ」と思ってしまうのでしょうか。これはかなり辛いことだと思えます。これまでの自分の生き方がそのまま、今の自分を否定することになる。過去の自分に、現在の自分が蔑まれていくわけですから。

でも、「ああなつても、人間は終わりではない」と、どんな状

～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～

況にある人をも尊ぶことができる拠り所に出遇えたなら、どんな状況にある私をも尊ぶことができるのだと、今まさに教えられています。

そして、この歩みを深めるご縁をくださったのは、「ああなつたら、人間終わりやなあ」とつぶやかれたあの先輩住職なのでしょう。まさしく「恩人」ですよ。もちろん、ちよつぱり嫌味は入っていますが。

とはいえ、これから弱気になることも、愚痴が出ることもあるはず。だって、私は肉体的な痛みやつらさが、とつても苦手なのです。だからくれぐれも、私が立派で強い人間だとは思わなくてください。実は、かなりヘタレなのです。

私が今、冷静でいられるのは、生と死を超えて確かに支えてくださる世界と出遇えたから、支えられているという実感があるからです。その世界を「南無阿弥陀仏の世界」というのだと、私は教えられてきました。 ■

※ 現在は退院し、薬を飲みながら通院する生活を送っています。自覚症状も副作用もなく、元気ですし、大好きな草刈りもできています。ただ、これからどうなるやら。とりあえず様子見といったところでしょうか。

月々の言葉

Monthly Words



草花に

極楽寺掲示伝道

よばれて

気づく

素通りの人生



6月の言葉

苔こけが大好きです。あの、日当たりひありの悪い岩や木に生えている苔が。特に杉苔すぎこけという種類が大好きで、庭を杉苔でいっぱいになりたいと、山から取ってきたり、ご門徒や知り合いのお寺から譲ってもらったりと、試行錯誤しこうさくごしました。苔寺あこがに憧れたのです。結局、環境かんきやうが合わずに断念だんねんしましたが、苔が好きな気持ちに変わりはありません。

苔こけに興味きやうみが出ると、世界が変わります。今まで気にもとめなかったのに、「こんなところにも苔が」「これは、何という種類の苔なんだろう」と、色んなところに目が行くようになりました。山へ行き、杉苔がたくさん生えている場所を見つけると、大興奮だいこうふん！これまで何とも思わなかったのに、今、



杉苔

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

では宝の山に見えるのです。

古代ローマの政治家ユリウス・カエサルは、「人間ならば誰にでも、現実の全てが見えるわけではない。多くの人たちは、見たいと欲する現実しか見ていない」と言ったとか。確かに私たちは、自分の見たいもの、興味のあるものしか目に入らないようです。よく「田舎には何にもない」という言い方をしますが、確かに田舎には、都会のような娯楽施設やショッピングモールはありませんし、刺激的な欲望を提供する場所もありません。でも、自分の興味が変われば、景色は変わります。刺激的な娯楽だけが、世界のすべてではないのです。

ならば、刺激的なものばかり追いかけていると、豊かだけれども、細やかなものが目に入らなくなるのかもしれない。穏やかな日常にあるかけがえのなさ、尊さに気づくこともなく、素通りしてしまおうのではないのでしょうか。

ちなみに気づきとは、私が「気づく」という言い方もしますが、「気づきを得る」「気づかされる」とも言い表します。私は、「得る」「気づかされる」と言った方が、気づきの本質を表しているように思います。なぜなら、気づきは外からやってくるものだからです。私が気づくよりも前から、すでに私のそばにあるものに、呼びかけられるように目覚めていく。目に入らなかったものが、飛び、

込んでくる。自分が、ようやくその魅力に気づけるほどに育てられていたことを知らされる。

自分が見ている世界が、現実の全てだと思っっているうちは、気づきとは出会えません。世界は私が思うより、もっと深く、大きく、豊かだ。それを、小さく決めつけていた自分の未熟さ、愚かさを受け容れるこちらの準備が整ったとき、気づきは外からやってくるのでしよう。

作家の芥川龍之介がお経をモデルにして書いた、『尼提』とい

う短編小説があります。尼提とは、人の名前です。お釈迦さまの時代に、インドの舍衛国という国に住んでいました。尼提は当時、卑しいと蔑まれていた身分の人で、舍衛国で出る糞尿を集めては、捨てるに行く仕事をしています。

ある時、尼提が糞尿を集めて運んでいたところ、前方よりお釈迦さまが歩いてこられるのを目にしました。彼は自分が卑しい身分であること、汚い糞尿を運ぶ仕事をしていることを恥じ、お釈迦さまの目に触れぬようと横道に入ります。

ところが避けたはずのお釈迦さまが、なぜか前から近づいてこられるのです。あわてて道を変えるのですが、やはりそこにもお釈迦さまが。七回道を変えて七回とも、行く先にお釈迦さまがお

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

られるのです。

慌てふためいた尼提は、持っていた器を落とし、割ってしまいました。辺り一面、ウンコやおしっこが散らばり、尼提も糞尿まみれです。そこに歩み寄られたお釈迦さまは、「尼提よ。私のよりに出家せぬか」と出家をすすめられました。

「私は賤しいものでございます。到底お釈迦様のお弟子たちなどと、御一緒にいることは出来ません」そう断る尼提にお釈迦さまは、「身分上下を選ばず分けない仏法のはたらきは、たとえば猛々しい火があらゆるものを、選ばず焼き尽くくことと変わりが無い」と言われ、尼提はお釈迦様のお弟子になった。そんなお話です。

この短編小説は、「呼びかけ」「素通り」「気づき」について、よく表しているように

に思っています。尼提は、自ら法を求めようとは一度もしませんでした。自分を卑しい者だと決めつけて素通りし、それどころかお釈迦さまを避け続けたのです。求められたのは、どこまでもお釈迦さまでした。お釈迦さまは、ずっと前から尼提に呼びかけておられたのです。「尼提よ、あなたの尊さに気づきなさい」と。そんなお釈迦さまの呼びかけを素通りするどころか、避けていた尼



堤。しかし、とうとうその言葉にうなずき、そのお心に気づき、
仏弟子となったのでした。

また、この尼提とお釈迦さまの関係は、私と阿弥陀さまあみだの
関係に重なるかさのです。親鸞聖人は、「阿弥陀さまは、この私を呼び続け
ておられる」と教えてくださいました。「あなたの迷いに気づい
てくれよ」「あなたの尊さに目覚めてくれよ」「私はいつも、あな
たのそばにいるよ」と。その呼び声が、南無阿弥陀仏のお念仏な
のだと。親鸞聖人は、そして私たちの先輩方は、「南無阿弥陀仏」
とお念仏を称える我が声に、阿弥陀さまの呼び声を聞いていかれ
たのです。

では、私たちは「南無阿弥陀仏」と称えながら、それを阿弥陀
さまからの呼び声と受け止めているでしょうか。受け止めるどこ
ろか、素通りしているのでは。そんな私たちを追いかけてでも救
わずにはおれないと、はたらいてくださっている。阿弥陀さまと
はそんな仏さまなのだということも、親鸞聖人は示されているの
です。

私は常に、呼びかけられていたのです。私はすでに、尊い願
いをかけられていた。そう気づかされた時、世界の深さ、大きさ、
豊かさに目覚めさせられる。これまでの未熟みじくさに、素直に頭が下
がるのでしょうか。↓

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

ただ、親鸞聖人は、こうも教えてくださいました。

「煩惱ぼんのうにまなこさへられて 摂取せつしゆの光明こうみょうみざれども 大悲ものうき
ことなく つねにわが身をてらすなり」(『高僧和讃』)

煩惱ぼんのうで濁にごった私たちの眼には、阿弥陀さまの光(はたらき)は
見えないけれども、この私を思ってくださいる阿弥陀さまのお心は、
厭あきることもなく、倦うむこともなく、常に私を照らし続けられて
いる。私が気づこうが気づくまいが、阿弥陀さまは呼びかけ続け
られていることに、変わりはないのだと。

このような世界に気づかされると、また世界は大きく変わって
見えてきます。ここまで私は、阿弥陀さまから思われているのだ
と知らされた時、素通りすどおしていたこれ
までの生き方が、恥はずかしく思えてく
るのです。■



お念珠修理いたします。
気軽に、お寺へお持ちください。

今年も河津桜の動画を作りました

極楽寺駐車場の^{かわづざくら}河津桜は、今年も^{きれいな}綺麗に咲いてくれました。ただし、例年よりもかなり遅く、そのくせ散るのはあつという間…。ということで、今年も河津桜の動画を作りました。極楽寺ホームページからも見ることができます。住職^{ごんしん}渾身の作品を、ぜひご覧ください。



河津桜の動画は、こちらのQRコードから、見ることが出来ます。

「極楽寺所有の山林からの^{ちょうぼう}眺望」動画も！

「^{くばらやま}久原山トレッキングコース」をご存知でしょうか。香月画伯が愛した^{さんちょう}久原山の山頂までの道のりが、現在^{けいとざん}「軽登山コース」として整備されています。実は、そのルートの一つが、極楽寺所有の山林を通り、しかもそこには海を見渡す^{みわた}ビューポイントがあるのだとか。常々、登ってみたいと思っていたのですが、今回思い切って登り、その様子を動画にしました。こちらの方も、ご覧ください。



動画は、こちらのQRコードから、見ることが出来ます。



極楽寺ホームページ

新コーナー



GokuTube

住職が作った過去の動画を見ることができます



極楽寺.comで検索
又はQRコードから



7月の言葉

阿弥陀さまのお浄土とは、「煩惱の穢れを離れた清らかな世界」だといわれます。「清らかな世界」と聞いて、皆さんはどんなイメージを持たれますか？実は、私たちの思う「清らかな世界」は、お浄土とはまったく違うものなのかもしれないのです。

考えてみれば私たちの環境は、昔と比べてとても清潔になりました。四十年前のシャンプーのCMでは、歌手の中森明菜さんが「信じられる？ティーン（十代）の二人に一人は毎日シャンプーしてるって」と語っていたほど、毎日髪を洗う人が珍しい時代でした。今では、そんなことで驚く人などいませんよね。私が子どもの頃は、泥だらけで鼻を垂らして遊んでいましたが、そんな子どもを見ることもなくなりました。

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

きれいな好きな人も増え、「潔癖」という言葉も定着しています。そして、「誰が握ったかわからない」おにぎりなんて、食べられない」という人も増えました。

このように、日本はどんどん清潔になりました。同時に、不潔に対して不寛容な社会になりました。これは環境面だけではありません。生き方や発言や社会、人間の関係性にも求められるようになっていきます。体罰、不適切な発言、不倫、一昔前では考えられないほど、厳しい目で見られるようになりました。不祥事を起こした人に対して、SNSやインターネットを使い、非難、怒号、罵声が浴びせられるようにもなりました。そんな不潔に対する不寛容さは、コロナ禍を通して、ますます強化されたようです。この状況を評論家の岡田斗司夫さんは、「ホワイト化社会」という表現で指摘されています。但しそれは、清潔ではあっても生きづらい社会です。事実、いつ自分に厳しい目が向けられるのではないかと怯えながら、ストレスの中で生きている人が、増えているのではないのでしょうか。



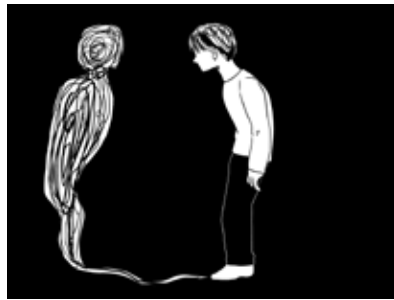
しかし、不潔に対して不寛容な人であっても、自分の中に不潔な部分はあるはずだし、ずるい部分も持っているはず。このような、自分の中にある否定されるべきものを、心理学者のユングは「影」と名づけました。そしてその「影」から目を逸らしていると、その歪みは「影の投影」という形であらわれるのだそうです。

なぜか自分でもわからないけど、あんな人を見るとイライラする。そんな経験はありませんか。別にその人が自分に危害を加えたわけではない。その人から嫌みを言われたわけでもない。

なのに、その人を見ると、なぜかイライラしてくる。これは、相手の中に自分の影を見ているから

なのだそうです。自分の影に似た部分を持っている人を、無意識のうちに選び、攻撃する。これが「影の投影」です。

不潔さを嫌い、清潔な正論を盾にして、醜く汚い暴言をSNSに書き連ねていく。ユングによれば、それは相手の中に自分の不潔さを見ているからであり、自己への嫌悪感が他者に投影されたものなのでしょう。そもそも、無記名の安全地帯から、好き放題に無責任な意見を書き連ねる行為自体が、



Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

ずるく汚く、歪なものだと思っただけです。

ともあれ不潔さに対する不寛容は、潔癖を求めるほどに排除へとつながります。それを象徴するような言葉が国際人権団体ヒューマン・ライツ・ウォッチの報告書にあります。ウクライナ侵攻におけるロシア兵の一人が、このように語ったということです。「我々はウクライナの汚れを浄化するためにここに来た」と。ゾツとしませんか。1990年以降のユーゴスラヴィア内戦で「民族浄化」の名の下におこなわれた虐殺を思い起こされる方もあるでしょうし、オウム真理教のポアを連想される方もあるかもしれません。自分たちは清らかで、あいつらは汚れている。その汚れを浄化するためには、殺してもいいのだと。

ただこれは、殺戮という行為を正当化するために、自分に言い聞かせている言葉なのかもしれません。戦場で兵士は、「自分が行っていることは絶対に正しいのだ」とある種の催眠状態に自分を追い込まないと、相手を殺すことができません。きないとも言われていますから。どうやら私たちがイメージする「清らかな世界」とは、「影」から目を逸らした、歪なものではないようです。

では、阿弥陀さまの「清らかな世界」も、同じように汚れたものを排除する世界なのでしょうか。いえお浄土は、そんな世界ではありません。

親鸞聖人が書かれた『正信偈』には、「凡聖逆謗齊回入如衆水入海一味（凡聖、逆謗、ひとしく回入すれば、衆水、海に入りて一味なるがごとし）」とあります。

水源がどこであろうと、どんな経緯で流れてきた川の水でも、海に注ぎ込めば皆同じ塩味になるように、凡夫も聖者も、逆らい謗る者も、一切衆生（すべての生きとし生ける者）を同じく齊しく受け入れて、清らかな仏とさせる。そんな、すべての人が完全に平等になれる世界が、阿弥陀様のお浄土なのだ。「逆謗（逆らい、背き、非難する者）」でさえもというところが、凄いですよね。何て、広いお心なのでしよう！これが、一切衆生を救いたいという願い（本願）によって建てられた国土、誰にも開かれたお浄土という世界なのです。

但し、誰もが同じく齊しく救われるということは、実は私たちにとって不快なことでもあるのです。なぜなら、大嫌いな者とも、酷いことをした人とも、同じく救われていくわけですから。「あんなヤツと一緒にするな」「不公平だ」「おか

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

しいじゃないか」と思うのが、世間一般の考え方ではないですか。阿弥陀さまのお心と比べると、何と狭い考え方…。やはり私たちは、どこまでも自分の清らかさを主張し、影から目を背けてしまおうのですね。

ちなみに「回入」とは、回心して帰入すること、自分の思いにこだわる心をひるがえし、真実に目覚めることを意味します。そして親鸞聖人において、真実に目覚めるとは、一切衆生を救いたいと願う阿弥陀さまのお心に目覚めるといふことなのです。ならば、「あんなヤツと一緒にするな」「不公平だ」と思う私こそが、まさに阿弥陀さまのお心に逆らい謗る者なのだと思われられるのです。但し、そんな逆謗の私をも、見捨てることなく摂め取ってくださいるのが、阿弥陀さまのお浄土でもあるのです。

どんな私であっても、決して切り捨てられることがない。このような世界が、私たちには用意されている。だからこそ安心して、自分の影と向き合うことができるのです。↪



極楽寺だよりを送りませんか



都会に出ておられる子どもさん、お孫さんたち、有縁の方々へ。お寺にお申し出ください。直接郵送いたします。ご遠慮なく！

近頃は、いろんな情報を気軽に手に入れることができる時代です。ところが、あふれた情報にふり回されてもいます。特に、不安をあおる宗教情報は危険です。また、仏事に関することについても、都会では気軽に相談するところがありません。お寺を身近に感じ、気軽に相談してもらうためにも、「極楽寺だより」が役に立つのでは…と思っています。

影の部分を含めて、私なんだ。この事実を受け容れること
からしか、何も始まらない。このままの私が、そのままに抱
き取られている。ありのままの自分と向き合うことで、この
ままではいけないという歩みが開かれる。その歩みこそが、
地に足のついた確かなものであるのでしょう。 ■



物でお布施 mono de OFUSE

家庭で眠っている物を、活かしませんか

書き損じはがき・未使用切手 CD・DVD
未使用テレフォンカード ゲームソフト・ゲーム機器
商品券・ビール券など金券・未使用タオル



仏教の精神にもとづき活動するNPO法人『アユス仏教国際協力ネットワーク』に送り、海外の難民支援や国内災害の被災者支援に使わせていただきます。



プルトップも、集めています！

本堂に設置してある回収箱に、お入れください。



入院中でも、カープの試合は全部観てました。ピンチの時には、思わず「あっ」とか「うっ」とか声が出てしまうのですが、大部屋なので、周りの方への配慮を怠らぬよう、看護師さんに心配をかけぬよう、必死で抑えながら…。今は、遠慮なく声を出せています。もう少し、喜びの声を出せれば良いのですが。

葬儀の連絡は、真夜中でも結構です！

親しい方が亡くなられたら、皆さん動揺されます。「これからどうすれば良いのか」と、不安になる方も多くあります。近頃は葬儀社さんも働き方改革で、夜中に対応する人と実際に葬儀を担当する人とを分けておられるようです。そのため引継ぎが上手くいかず、行き違いやすれ違いのケースも目にします。遺族の方に、しっかりと寄り添うためにも、お寺の者が間に入ります。どんな時間でも結構です。遠慮なく、ご連絡ください。

納骨堂新築計画進行中です

極楽寺の納骨堂新築計画が進んでいます。これからの維持管理を考えると、お墓よりも納骨堂の方が負担は確実に少ないと言えます。ご門徒以外の方でも大丈夫です。遠慮なく、お寺までご相談ください。

今年も「極楽寺Tシャツ」 受け付けます！

今年も、一枚1,000円のご懇志で受け付けます。カラーバリエーションも豊富！気軽にお申込みください。



□ 病気が明らかになってから、若院の帰坊、それに伴う引継ぎ作業などで、大わらわの日々でした。自覚症状はまったくありませんでしたし、元気いっぱいだったので、後顧の憂いのないようにと、念願の極楽寺山からの眺望も見に行きましたし、したくてたまらなかった草刈りも、入院前にすることができました。□ 入院してからも退屈しないようにと、ネット環境も整え、おまけにお寺のパソコンデータとも共有できるようにと準備万端。これで大丈夫と思いきや、同時にハタと気づかされました。入院してからも仕事から離れられない環境を、自ら作ってしまったことに…。環境が整えられると、しなくても良いのにしちゃうんですね。できなければ、やらないのに…。便利が良いものだとは限らない、そのことを痛感させられた次第です。こうやって、現代社会に生きる私たちは、ゆったりと過ごす時間を失い、ストレスをためていくのでしょうか。そんなことを思いながら、便利さにこき使われている私です。とほほ。(住職)

次回法座の予定

盆法座 8月15日(金) 朝9時より

法座の後に、「平和を願う鐘」をつきます。どなたでもどうぞ。

来年度
より

極楽寺記念事業計画をスタートします

今回、若院が帰坊することとなり、いずれ住職を継職することを念頭に、来年度より住職継職記念事業計画をスタートすることといたしました。

【計画内容】

① 裏山駐車場整備事業

参拝しやすいように、裏山駐車場の高さを削る工事を考えています。

また駐車場横に、納骨堂を新築する計画がスタートしています。

この工事によって、お参りしやすくなると共に、駐車場も広がります。

② 現納骨堂跡地整備事業

現納骨堂が移転した跡地に、足の悪い方のための駐車場を作ろうと考えています。

③ その他

石垣上の塀が老朽化しています。この機会に、整備したいと考えています。

ご懇志のお願い

① 来年度より十年間、門徒会費の増額をお願いします

これまでの会費は、年間 4,000 円です。

これを春 5,000 円・秋 5,000 円の二回に分けて、年 10,000 円とさせていただきます、事業資金に充てたいと考えています。期間は十年です。

今年度まで
年会費 4,000 円



来年度より十年間

年会費 10,000 円
春 5,000 円
秋 5,000 円

② 特別懇志を募集します

特別懇志を募集いたします。おいくらでも結構です。お志のある方、何とぞご協力いただきますようお願い致します。

ご迷惑をおかけしますが、何とぞよろしくお願ひ申し上げます。

詳しくは、お寺までおたずねください。

※ なお、納骨堂新築計画は、納骨堂加入者の方々によって進められるものであり、今回のご懇志とは関係がないことを、申し添えます。